香川大学教育学部附属坂出小学校　令和６年３月14日

研究だより　第47号

研究主題

多様な他者と共に、自ら学びを進める子供の育成
～自己調整力を育てる学習の展開～

ごあいさつ

校　長　　片岡（かたおか）　元子（もとこ）
副校長　　山路（やまじ）　晃代（あきよ）

陽春の候、皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

長く閉ざされた時代がようやく明け、社会・学校は、新しい時代を迎えることになりました。子供たちが、新しい時代を生き抜くために必要な力は何かと考え、新しく研究を始めることにしました。多様な他者と関わりながら、自ら学びを進める子供とはどのような姿であるのか、そして、私たち教職員はどのように関わればよいのか等、子供の学びたいという思いや願いを大切にし、実践を積み重ねております。まだまだ研究がはじまったばかりです。私たち教職員も自ら学び続けるチームとなり、研究に邁進して参りますので、引き続きご指導・ご助言いただきますようよろしくお願いいたします。

本校は、大学等の知見や先進的な研究に学びながら、どの学校にも生かせる授業づくりを提案することが求められていると考えています。本年度の取組についてご覧いただき、忌憚のないご意見・ご感想をお聞かせいただけると幸いです。

研究の概要

多様な他者と共に、自ら学びを進める子供の育成
～自己調整力を育てる学習の展開～

1　研究主題設定の理由

「18 歳意識調査」の結果では、日本の若者たちは自信をもてず、学びに意義を見いだせていない様子が見られます。また、県の学習状況調査結果を見ると、73％の子供が「授業は楽しい」と答えていますが、「勉強が好きだ」と答えた子供は 51％でした。学びに意義を見いだせず、自分で学ぶことに消極的な子供たちの姿が見えてきます。

コロナ禍において同学年の友達はもちろん、学校を介して関わる異年齢の子供たちや保護者等の大人との関わりが、よりよい学びのために大切であることが再認識されました。この多様な他者との関わりの中で自ら学びを進めていける子供を育てたいと考えました。

2　研究副主題について

上記主題を達成するため、私たちは次のような目指す子供の姿を設定しました。

自らの目標に向かい、問題を発見して、課題を設定し、諦めずに試行錯誤し、
自らの学びを正確に捉え、今後の学習や生活に生かそうとする子供

上記のような子供の姿を実現するために着目したのが、自己調整学習です。自己調整学習では、多くの研究において「意図的に方略を用いて学習に取り組み、その結果から学習過程を調整しようと動機付けられている」姿が目指されています。この姿は、本校が目指す子供の姿と重なります。友達などと関わりながら、子供が自分で学習を調整できるようにするために必要なことを考え、そのために必要な力を「自己調整力」として設定しました。例えば、学習過程の見通し場面でどのような課題に取り組むか決める、行動場面で様々な考え方で課題解決に取り組む、といった力です。

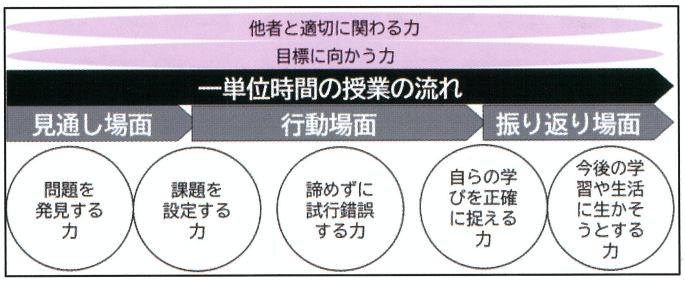


図１　自己調整力

3　自己調整力を育てるために

まずは、子供たちと学ぶ意義や価値を共有すること、学びの過程において子供が課題や解決方法を選択できるようにすることが大切です。そして、自己調整力を発揮する方法を教えたり、直接的に支援したり、間接的に支援したりします。同じ支援を続けるのではなく、単元や題材を通して支援の仕方を変化させていき、子供が自分でできるようにしていきます。

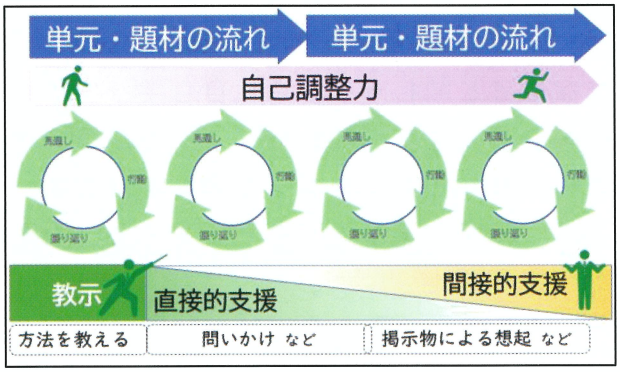


図２　単元・題材構成と自己調整力、手立ての関係

第１学年国語科「楽しくつないでお話名人　～『なにに見えるかな』～」

学習指導者　小出　早織

教師のモデルを基に「反応を返す」や「質問する」という、相手の発言を受けて楽しく話をつなぐこつを見付け、三人組で役割を交代しながらこつを使って話す練習していきました。その際に、話合いで使った言葉や話をつなげた回数を記録したチェックシートやこれまでの話合いの動画を基に、友達と振り返り、本時できるようになったことを客観的に捉える方法を身に付けていきました。

どんなことを質問したらよいか考えて、話す練習をしよう

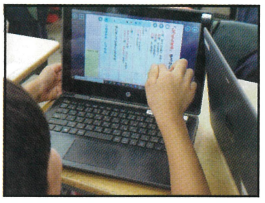
【見通し】

学習計画を基に、前時までに「反応を返す」言葉を見付け、見付けた言葉を使って、話をつなげられたことを確認しました。そして、本時の学習課題を確認する際は、「どんな質問をしたらよいかを考えて練習すると、お話名人に近づくことができる」などと本時の課題解決の価値を感じ、意欲的に取り組もうとする姿が見られました。

【行動】

教師のモデルから質問する言葉を見付け、見付けた言葉を基に、分からないことや気になることを質問するとよいことを捉えました。練習は、三人組で行い、話し手（何に見えたかを話す）、聞き手（話がつながるように質問をする）、チェック係（話し手と聞き手が話し合う様子を記録する）の役割を交代しながら、「この葉っぱは何なの」や「りすが何をしているところなの」などと、見付けた質問する言葉を使って話をつなぐことができました。

【振り返り】



本時できるようになったことを、一人が終わってすぐに振り返るのか、三人が全て終わってから振り返るのか選択できるようにし、それぞれのグループに合ったタイミングで振り返りました。その際、本時の動画やチェックシートを見ながら、お互いの話し方を確認することで、「質問する言葉がたくさん使えていて、話がつながった回数が増えているよ」などと自分の成長に気付くことができました。

成果と課題	○「前時のようにチェックシートを使って、今日も振り返りたい」という意見が子供から出ており、方法が定着していた。役割交代の際に座席も入れ替わるようにしていたことで、自分の役割が明確になりスムーズに活動が行えていた。 ▲何をデジタルで行い、何を紙に書くかなど、一年生という発達段階を踏まえて活動内容の精選が必要だった。振り返り場面で、何をどのように振り返るのかを、全員で共有できるような支援があればよかった。

第１学年国語科「動物の知恵なかよしマップを作ろう　～『子どもをまもるどうぶつたち』～」

学習指導者　小出　早織

「自分のお気に入りの動物の知恵を見付けて、動物カードを作り、動物の知恵なかよしマップを作ろう」という単元のゴールに向けて、それぞれの動物の知恵についてカードにまとめてきました。本時は、６枚の動物カードを用いて、知恵やその理由について共通点や相違点に着目し、班の友達と一緒にいろいろな仲間分けの仕方を試すという諦めずに試行錯誤する方法を身に付けさせました。

いろいろな仲間分けの仕方を見付けよう

【見通し】

学習計画を基に、ペアで様々な仲間分けの仕方を見付けられたという成功体験を想起させ、本時の学習課題を確認しました。その際、理由も併せて問うことで、「ペアで話し合って新しい仲間分けの仕方を見付けることができたから、今日は班の人たちとやってみたい」などと本時の学習への意欲を高めました。

【行動】

自分が調べたお気に入りの動物について紹介した後、動物の知恵やその理由が書かれたカードを見比べ、共通点や相違点を手掛かりに仲間分けを行い、マップに表しました。自分でマップを作った後は、それぞれが考えた仲間分けの仕方やその理由について交流しました。その際、実際に自分の手元にあるカードを使って、友達の仲間分けの仕方の理由を聞きながら操作することで、「自分のカードを動かして試すと、友達の考えがよく分かったし、新しい仲間分けの仕方を見付けることができたよ」などと、友達の考えをより理解し、友達の考えから学びを広げる姿が見られました。

【振り返り】

振り返りの際には、友達と話し合う中で、面白いな、なるほどなと感じた考えはあったか問いかけることで、友達と考えを共有することのよさやいろいろな仲間分けの仕方を試すという諦めずに試行錯誤する方法のよさを感じていました。

成果と課題	○知恵をカードにまとめたことで操作しやすく、何度でも自由に試しながら、様々な仲間分けの仕方を見付けることができた。友達と一緒にいろいろな仲間分けの仕方を試すと新しい考えが見付けられるという方法のよさを感じていた。 ▲自分が考えた仲間分けの仕方について説明する際の手立てが必要だった。自己調整するための方法と国語科として付けたい力、言語活動の三つの組み合わせがぴったりと合った授業になるようにする必要がある。

第２学年国語科「聞きたいことを落とさず聞こう　～『外国の小学校について聞こう』～」

学習指導者　東　泰右

ブラジル・フランス・中国の中から、自分が選んだ国の小学校についての紹介を聞いて感想を伝え合うために、聞きたいことを落とさず聞く方法を見付け、それを活用してきました。また、今後の学習や生活に生かそうとする力を高めるために、新しく分かったことや前よりもできるようになったことを振り返り、それが生かせそうな場面を考えるという方法を身に付けていきました。

自分が選んだ国の小学校の紹介を聞いて、感想を伝え合おう

【見通し】

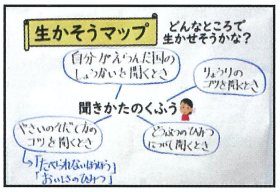
学習計画を基に、これまでに聞き方の工夫を見付けたことや、その工夫を使うとカンボジアの小学校の紹介を聞き取れたことを確認しました。本時の学習課題を確認する際は、「自分が選んだ国でも、聞き方の工夫が使えそう」などと、これまでの学びを生かそうとしている姿が見られました。

【行動】

タブレット端末とヘッドホンを用いて、自分が選んだ国の小学校の紹介を聞きました。「持ち物」「休み時間」などの聞きたいことの数と種類を選べるだけでなく、動画の再生速度も二段階から選べるようにしたことで、自分に合った方法を選択しながら学ぼうとする姿が見られました。聞き取った内容を確認し合った後は、「フランスはボールペンで文字を書くんだね。私も使ってみたいな」「書き間違えたときに困りそうだから、私は鉛筆の方がいいな」などと、感想を伝え合うことができました。

【振り返り】

新しく分かったことや前よりもできるようになったことを振り返ることで、本時の学びを明確にしました。その際、単元の導入で試しにイタリアの小学校の紹介を聞いている時の動画を提示することで、「あの時は全然聞き取れなかったけれど、今日はしっかり聞き取れた」などのように、成長を捉えやすくしました。その後、学びが生かせそうな場面を共有して書きためてきた「生かそうマップ」を参考にしながら、「野菜の育て方を聞く時には、『おいしさの秘密』や『虫に食べられない方法』を聞こう」などと、どんな場面で学びが生かせるかを具体的に考えていました。



成果と課題	○聞きたい国、聞きたいことの数や種類、動画の再生速度を選択し、自分の興味や能力に合わせた方法で取り組めるような手立てが有効だった。イタリアの時の動画を見せたことで、これまでの自分と比較して成長を捉えやすくなっていた。 ▲感想を伝え合うことよりも、自分が選んだ国の紹介を全て聞き取ることに意識が向いている子供がいた。単元の始めに、言語活動を設定した時のことを本時の見通し場面で想起させると、感想を伝え合うことへの意識が高まったのではないか。

第５学年国語科「読み継がれてきた名作は、なぜ人を惹き付けるのか　～『注文の多い料理店』～」

学習指導者　岡根　平

「自分が見付けた物語の面白さを解説して伝えよう」という単元のゴールに向けて、子供たちと一緒に必要な学習を考え、学習計画（面白さ追究マップ）を作成しました。また、毎時間考えたことや分かったことも併せてマップに蓄積していくことで、「本時分かったことを振り返り、学習計画を基に、次にどんな学習が必要か考える」という、課題を設定する方法を身に付けさせました。

「展開」場面にある面白さを生み出している表現を見付けよう

【見通し】

面白さ追究マップを確認し、前時に設定した本時の課題をペアで確認しました。その際、課題設定の理由を問い、単元のゴールを意識させ、本時の課題解決の価値を感じられるようにしました。課題設定後、本時の活動時間を自分たちで設定しました。前時に設定した時間と実際にかかった時間を振り返らせることで、より適切な時間を設定できるようにしました。

【行動】

面白さを生む表現を見付ける際には、「人物の性格や考え方が分かる表現」「隠れた意味が分かる表現」「音や様子が分かる表現」の三つの視点を基に叙述を探しました。教具は紙媒体のものとデジタルの両方を用意し、自ら学びやすい方法を選択して学習を進めました。

自力解決後は、見付けた表現を班の友達と交流しました。その際、自分の出席番号を書き、視点毎に色分けしたシールを拡大した本文に貼り合うことで、互いの考えの異同を視覚的に捉えられるようにしました。交流により、自分が見付けていない表現や、違う面白さを感じられる表現など、多様な叙述を基に考えを広げることができました。

【振り返り】

次の課題を設定する方法を想起させた後、本時の学びを捉えるために、班や全体で交流したことを基に、現時点で自分が解説文で紹介したい面白さを生み出す表現をランキングで更新しました。その後、設定した活動時間や計画を振り返り、単元のゴールの達成に向けて次に必要なことについてマップを基にペアで話し合い、次時の課題を設定しました。

成果と課題	○表現を見付ける際の視点を色分けし共通理解しておくとともに、自分の考えを広げるために何について班で話し合えばよいか視点を交流前に確認しておくことで、交流の際、互いの考えの異同に着目しながら友達と交流できていた。 ▲「課題が解決できた」という規準が子供にとって分かりにくかった。自分なりに表現を見付けた、もしくは交流によって考えが広がったなど、規準をはっきり示すことで、次の時間に本当に必要な課題を考えることができたのではないか。

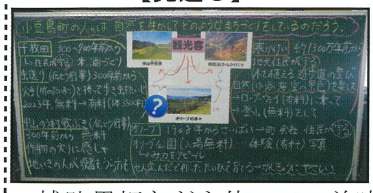
第４学年社会科「自然の魅力を生かし、持続可能な観光地を目指す小豆島町」

学習指導者　網野　未来

小豆島町のまちづくりについての小単元を組んだことで、オリーブ、寒霞渓、中山千枚田という小豆島町ならではの自然に気付けるようにしました。三つの特色についてさらに知りたいことが見付かり、もっと調べたいという気持ちが高まったため、リストにして蓄積することを指導しました。また、分かったことや驚いたことを基にさらに知りたいことを見付ける方法の習得を目指しました。

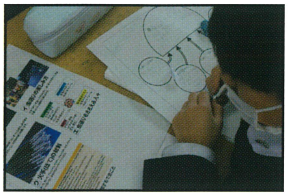
中山地区の人々は、なぜ虫送りの火手を有料にしたのだろう

【見通し】



補助黒板などを使って、前時分かったことを振り返った後、「さらに知りたいことリスト」を基に、本時考えたいこととその理由を確認しました。中山地区の人々が虫送りの火手を有料にした理由について解決できたら、単元の学習問題の解決につながっていきそうなことを捉えていました。

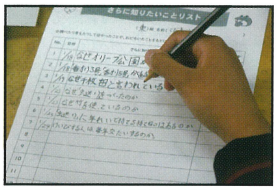
【行動】



既習の資料を参考にしながら、火手を有料にした理由をクラゲチャートに表していきました。その後の全体交流では、「有料になったら、観光客は虫送りに来なくなるのではないか」と投げかけ、観光客も様々な意見をもっていることや、虫送りには無料の楽しみ方もあること、有料になっても火手を持ちたいと思っている人は来てくれる等、大切な行事を守りたい人たちがいることに気付けるようにしました。さらに、自治会長の方の話の資料を使って話し合ったことを検証した後、分かったことを振り返りカードに記述させました。子供たちは、「住民は集めたお金を材料費や燃料費に充てることで虫送りをこれからも続けていけるし、虫送りが続くと観光客もこれからも楽しめる」などと、分かったことをまとめることができました。

【振り返り】

本時できたこと（学び方）やもっと頑張りたいと思ったことを振り返りました。その後、リストに蓄積しているさらに知りたいことや、分かったことの記述と本時の資料を参考にし、さらに知りたいことを見付け、リストに書き加えました。子供たちはさらに知りたいことが見付かったことで、次時への意欲を高めていました。



成果と課題	○様々な資料を基にしながら、虫送りの火手を有料にした理由について粘り強く考えることができた。また、本時の学びを基にさらに知りたいことを見付けることができ、次の学習への意欲を高めることができた。 ▲前時に見付けた問題と単元の学習問題とのつながりを具体的に共通理解していくことで、本時の課題解決への意欲をさらに高めることができたのではないか。見付けた多様な問題を解決できる単元構成になるように工夫していく必要がある。

第６学年社会科「日本国憲法に基づく自分たちの生活」

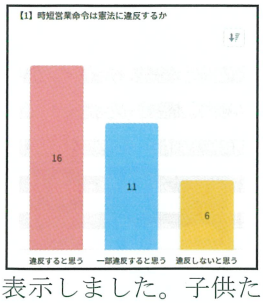
学習指導者　滝井　康隆

諦めずに課題解決に取り組むことができるように、既習事項を手掛かりにしたり、友達の考えを参考にしたりする方法を身に付けさせるための手立てを行いました。既習を振り返りやすくするために資料の大切だと感じた部分を切り抜いて学習支援アプリ上の「学びのスクラップブック」にまとめさせ、友達と資料のやり取りをしながら話し合える場を設定しました。

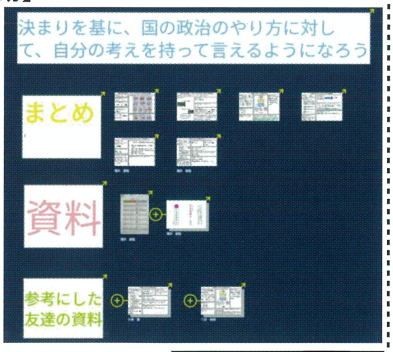
時短営業命令は、憲法に違反しているだろうか

【見通し】

飲食店への時短営業命令は憲法に違反しているか友達と話し合うことで、自らの考えを深めるという目的を確認しました。その後、学習支援アプリのアンケート機能を使って、テレビモニターに全体の考えの傾向を表示しました。子供たちは話合いへの意欲を高めていきました。



【行動】



子供たちは、既習事項をまとめたカードや、関係する条文を切り抜いた資料を見せ合いながら話合いを進めていきました。自分と同じ考えの人と話し合った子供は、自分が使っていなかった資料をもらって考えを強化していきました。自分と違う考えの人と話し合った子供は、相手の資料を見ながらなぜそう考えたのか理由を聞き、新たな考えに触れていきました。実際の裁判の判決を伝えた後、既習事項や友達の考えを参考に自分なりの結論を出すよう促しました。本時のような議論を続けていくことが社会をよりよくすることにつながることを共有しました。

【振り返り】

テレビモニターに振り返りカードを映し、直接コメントを書いて、本時できたことを価値付けました。「いろいろな考えから違憲ではないと知ったけど、店のことを考えるとまだ納得できない」などと、さらに考えを深めようとする姿も見られました。

成果と課題	○日本国憲法を学習する際に、具体的な会社や政策を取り上げて考えさせたことで、根拠を明確にしながら互いの考えを積極的に聞きに行く話合い活動ができ、民主政治における議論の大切さを感じさせることができた。 ▲話合いの際に、子供たちが根拠として挙げたものが憲法の条文だけにとどまってしまい、自分たちの生活や店の立場に立った考えの表出が少なかった。憲法で定められている内容にも優先順位があることも捉えさせたかった。

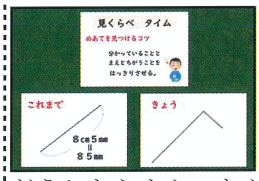
第２学年算数科「予想した長さを、正確に測って確かめよう　～長さ～」

学習指導者　井下　修一

課題を設定する力を育てるために、「分かっていることと、前と違うことを明らかにする」という方法を習得できるようにしました。分かっていることを明確にするために、前時の板書や振り返りカードなどのうち、振り返りやすいものを使って、分かっていることを伝え合う場を設定し、前時と本時の問題の違いが分かるように並べて提示し、分かっていることと比較しやすくしました。

折れ曲がったものの長さは、どうやって測ればいいのかな

【見通し】

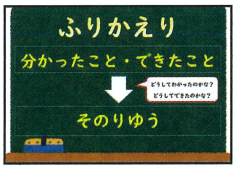


教師が、「目当てを見付けるためには、どうしたらよかったかな」と問いかけることで、課題を設定する方法を想起させました。分かっていることを伝え合った後、前時と本時の問題を並べて掲示することで、前時と違って折れ曲がっているということに気付き、「折れ曲がったものの長さは、どうやって測ればいいのかな」と課題を設定しました。

【行動】

長さを測定する対象物を提示し、どれくらいの長さかを予想できるようにしました。その後、長さを確かめる方法を尋ねることで、これまでと同様に「二つの直線の長さを測定する」ことに加えて、「その二つの長さを合わせる」という考えを引き出しました。その後、長さを書き込めるものさしの教具を使用して数を数えることで長さを調べたり、立式して計算したりして長さを求めていきました。その際、単位をそろえて計算することや式のよさに気付けるようにしました。課題解決後に、他にどんなことができそうか尋ねることで、二つの長さの違いを求める場面を子供たちから引き出し、新たな課題を解決していきました。そして、課題解決過程を振り返らせることで、長さの引き算も単位をそろえて計算すると解決できたことを共有しました。

【振り返り】



本時の学びが明確になるように、「分かったこと」と「その理由」をワークシートに記述できるようにしました。その後、数名の子供に発表を促し、同じ考えの子供に挙手させることで、より多くの子供が分かったことを表出できるようにし、次時の導入に生かせるようにしました。

成果と課題	○繰り返し方法を活用することで方法を習得し、どの子供も分かっていることと、前と違うことを明らかにすることが習慣化されてきた。また、自発的に課題を設定する方法を活用する姿が他の単元や他教科でも見られている。 ▲課題を設定するためには、その方法を理解していることに加え、動機付けが欠かせない。本時であれば、折れ曲がったものを子供が見付けていたり、つくったりしていれば、より長さを測定する必要感が出たのではないか。

第２学年算数科「かけ算の世界を広げよう！　～かけ算（２）～」

学習指導者　井下　修一

九九を構成して、かけ算の術【分身の術（同数累加）、かけられる数を足すの術（乗数が１増えれば積が被乗数分だけ増える性質）、交換の術（交換法則）】が成り立つか確かめる活動を通して、どの段でも三つのかけ算の術が成り立つことを理解できるよう指導しました。また、「自分の取り組みやすいかけ算の術から順に試す」という諦めずに試行錯誤する方法の習得を目指しました。

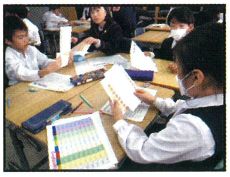
三つのかけ算の術が使えるか、８の段の九九をつくって確かめよう

【見通し】

前時の学習を振り返ることで、「かけ算の術を使って、７の段をつくることができた」「三つのかけ算の術が７の段でも使えた」などと、分かったことを明確にしました。その後、単元計画や未完成の九九表に注目させることで、既習事項と未習事項を整理し、「三つのかけ算の術が使えるか、８の段の九九をつくって確かめよう」と課題を設定しました。

【行動】

「三つのかけ算の術が８の段でも使えるかどうかを諦めずに確かめるには、どうしたらいいかな」と問いかけることで、「自分の取り組みやすいかけ算の術から順に試す」という諦めずに試行錯誤する方法を想起させました。どのかけ算の術から試すか自己決定する時間を設定し、自分で考えたり、グループで交流したりしながら８の段の九九を構成し、三つのかけ算の術が８の段でも使えるかを検証していきました。その際、試したかけ算の術に印を付けさせることで、まだ試していない術がどれかを分かりやすくし、他のかけ算の術も試しやすくしました。そして、学級全体で８の段の九九の答えや、８の段でも三つのかけ算の術が使えたかを確認しました。まだ習っていない段でも、取り組みやすいかけ算の術から順に試したから諦めずに取り組み、確かめることができたことを称賛しました。



【振り返り】

振り返る観点を示すことで、算数に関する学びと学び方の両方で振り返り、本時の学びが明確になるようにしました。九九表に８の段を書き加えることで、「９の段についても三つのかけ算の術が成り立つか、九九をつくって確かめたい」と次時への意欲が高まる姿が見られました。

成果と課題	○学習して分かったことを基に他の段ではどうかを考えていくことで、子供たちが見通しをもって取り組むことができた。また、自分の取り組みやすいものから順に取り組んでいくことで、どの子供も活動に参加することができた。 ▲三つのかけ算の術を見付けようとする目的意識をもたせる手立てが必要だった。分身の術が成り立つか検証する際には、実際に足し算をせずに検証している子供がいたので、検証方法について学級全体で共通理解しておく必要があった。

第３学年算数科「分数を正しく使える分数マスターになろう」

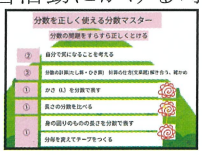
学習指導者　好井　佑馬

単元を通して、全体課題の解決後に、解決したことを基に自分で数やものを変えて問題を発見して、解決する時間を設定しました。「１ｍを４以外の数で分けても表せるかな」「長さじゃなくてかさも分数で表せるかな」などと自分で問題を発見して解決することの面白さを感じられるようにし、明らかにした問題場面から数やものを変えて問題を発見する方法を習得することを目指しました。

分数の足し算の仕方を考えよう

【見通し】

１時間目に、「分数を正しく使える分数マスターになる」という単元の目標を共有しました。２時間目には、目標に向けて、分数について学びたいことを考え、学習計画を立てる場を設定しました。本時は、それを基に前時の学びを振り返り、本時の課題を確認しました。また、「レベル１」、「みんなで」、「問題発見タイム（レベル２）」といった本時の学習活動にかける時間を話し合って設定し、見通しをもてるようにしました。



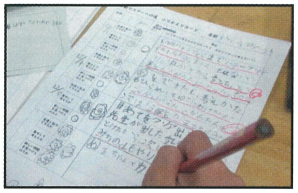
【行動】

レベル１の「2/5＋1/5＝3/10は正しいか」という問題を、分数の目盛りの入った１Ｌの容器に水を入れたり、数直線や１Ｌますの図をかいたりしながら考える場を設定しました。全体共有の際には、子供が司会を行い、3/10Ｌでは１Ｌを10個に等分した三つ分になり、適切ではないことを確かめられるようにすることで、1/5が幾つあるかを考えるとよいことに気付き、足し算の理解を深める姿が見られました。

次の問題発見タイムでは、「もし他の数だったら」と考えて、分数の足し算の問題をつくり、解決する場を設定しました。その過程で、「分母より分子が大きくなった場合はどうしたらいいかな」などと考え、友達と解決を目指し、自分の考えた問題を友達と解き合うことで、分母の数を変えずに、分子の数を計算することを理解する姿が見られました。

【振り返り】

協働、粘り強い問題解決、問題発見の三つの観点と本時の課題の達成度を理由とともに３段階で自己評価できるようにしました。「1/5が何個あるかを数えたらいい」などと解決に有効であった考え方や「友達と説明し合えた」などと友達との関わりについて振り返る姿が見られました。



成果と課題	○自分に合った解決方法を選択したり、話し合ったりできる環境設定によって、自分の考えを伝え合いながら主体的に学ぶ子供たちの姿が見られた。 ▲子供たちが進める時間も大切だが、教師が子供の考えをまとめる時間やポイントとなる考えが明確になる板書など、教師の手立てによって、学習内容の理解を保障したい。

第１学年生活科「秋となかよし　～２年生を秋のテーマパークに招待しよう～」

学習指導者　増田　洸一

自らの学びを正確に捉える力を身に付けさせるために、振り返りでは、「自分の成長を確かめるためには、前の時間と比べながら、ペアに遊びを試してもらう」という方法を習得させていきました。その際、「２年生が楽しめる」「秋のものを使っている」という個人課題をクリアしているかどうかをペアに確かめてもらいながら交流することで、自己の変容や成長を捉えやすくしました。

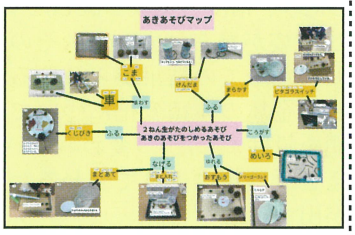
秋の遊びをもっともっともっとレベルアップしよう

【見通し】

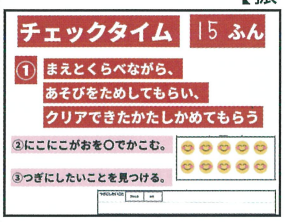
単元計画表を基に、ゴールに向けて秋の遊びをレベルアップしてきていることを確認しました。「２年生が楽しめる」「秋のものを使っている」のどちらかから個人課題を選び、ペアの友達に今日工夫したいことを伝え合う場を設定することで、活動の見通しをもたせました。

【行動】

個人課題に沿って、必要な材料や道具を子供が自由に選んで使えるようにすることで、自分の遊びを工夫しやすくしました。活動中に見付けた新しい遊びの工夫があれば、教師が「秋遊びマップ」に付け足していき、子供たちは各班の１人１台端末で、それらを見られるようにしたことで、友達の工夫を参考にしながら、遊びをレベルアップできるようにしました。粘り強く遊びを工夫する姿が見られました。



【振り返り】



前時の自分の遊びと比べながら、ペアに遊びを試してもらい、目当てをクリアできているかどうかを確かめる時間を設定しました。毎時間同じペアと交流することで、本時までの変容をお互いに捉えやすくしました。本時の自分の取組と成果についてチェックシートに十段階で丸を付け、丸をした理由を全体で共有しました。自分の成長を感じたり、自分にはなかった視点を見付けたりしている姿があり、自らの学びを正確に捉える方法の良さを実感できていました。

成果と課題	○名札の色を分けて選んだ課題を可視化したり、工夫したいことを伝える場を設けたりしたことで、本時の活動が明確になった。振り返り場面でペアに遊びを試してもらい、成長を認めてもらうことで、自己の変容を実感できていた。 ▲秋遊びマップは、次工夫したいことを考える見通し場面や振り返り場面で共有した方が、より必要感をもって子供が活用できたのではないか。振り返りでは、友達に試してもらい、助言をもらう意味や良さを共通理解しておく必要があった。

第１学年生活科　「見て！聞いて！ぼく、わたしの成長！　～もうすぐ２年生～」

学習指導者　増田　洸一

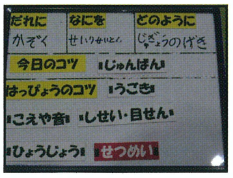
自らの学びを正確に捉える力を身に付けさせるために、振り返り場面では、「この時間できるようになったこととその理由を確かめたらよい」という方法を習得させていきました。家族に自分の成長が伝わる発表になったかどうか、二つの理由（友達と協力できたか、家族のことを考えてできたか）の根拠を友達と伝え合う場を設けて、学びを正確に捉えやすくしました。

成長を家族にもっと伝わる発表にしよう

【見通し】

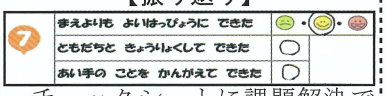
前時を振り返り、自分たちの姿と振り返りの観点の具体を結び付け、学びを正確に捉える方法やその観点について取り組むことで課題解決につながるよさを共有しました。「今日解決したいこつは決まっていますか」と問いかけ、レベルアップボードを基に、班で確認する時間を設け、活動の見通しをもたせました。

【行動】



これまでに達成したこつは何かを各班で確認し、発表練習に取り組みました。その際、自分たちが達成できたかどうかを捉えやすくするために、裏返すと色が変わるこつカードを用いて、ゴールに近づいていることに気付けるようにしました。机間指導の際には、「お家の人が見たい発表になっているか」と問いかけ、相手意識をもって発表を工夫できるようにしました。中盤では、他の班と発表を交流したいか、班での練習時間を続けるかを子供たちが選択できるようにして、交流が必要な班は、必要な班同士で教師がペア班を作って発表を見せ合えるようにしました。終盤では、本時の練習の成果を動画で撮影し、見返せるようにすることで、変容を捉えやすくしました。

【振り返り】



チェックシートに課題解決できたかどうかを３段階で評価した後、「友達と協力できたか」「相手のことを考えてできたか」を４段階で評価しました。その後、友達とそのマークにした理由を伝え合う場を設定することで、本時の活動場面を想起して自分の姿を正確に振り返りやすくしました。

成果と課題	○見通し場面で、前時の子供の姿を紹介し、観点の具体とつなぐことで、課題解決につながる姿を子供たちが意識をしながら活動できた。机間指導の際も、相手意識があるかどうかを問いかけることで見通し場面の手立てが有効に働いた。 ▲例えば「声や音」のこつは長い紐を用意し、その紐の距離を離れても聞こえるかどうかを判断するなど、本時選んだこつを解決できたかどうかを捉えるための基準となる具体物などがあれば、学びをより正確に捉えることにつながる。

第４学年理科「温度が変わると体積も変わる　～物の温度と体積～」

学習指導者　米谷　直樹

振り返りを行う際は「各場面の自分の行動を思い返して、分かったこととその理由を振り返るとよい」ということを伝え、「学びの足跡シート」や「チェックリスト」を使いながら、自らの学びを正確に捉える経験を積ませました。また、「チェックリスト」を使って分かった理由を想起すると、自らの学び方を振り返ることや、次にしたいことを見付けることにつながることを共有しました。

金属の温度を変えると、体積はどうなるのだろうか

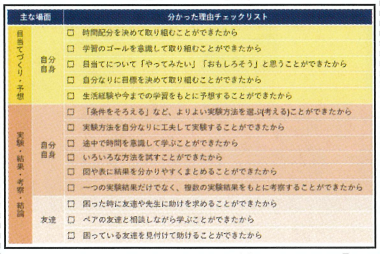
【見通し】

まず、金属について知りたいと考えた理由や１種類ではなく３種類の金属を調べる理由を確認しました。子供たちは「学びの足跡シート」を確認したり、前時の板書をモニターに映したりしながら、前時に発想した予想を確認し、課題を解決したいという思いを高めていました。

【行動】

実験方法を動画で確認した後、実験や考察にかける時間やどのような方法で温度を変化させていくかを子供たち自ら選択し、実験できるようにしました。鉄、銅、アルミニウムの円板をガスコンロやお湯で温めたり、氷水で冷やしたりしてから赤い基準枠の上に置き、基準枠と比べて大きさが変わっていないかを確かめました。実験中は、ペアやペア以外の友達と相談したり、何度も実験し直したりしながら、粘り強く結果を導き出す姿が見られました。その後、黒板に貼った全ての結果から分かることを交流し、金属の体積変化についてまとめる時間を設けました。「変わらない」という考えと「種類によって変わる」という考えが出ました。

【振り返り】



主な場面		分かった理由チェックリスト
目当てづくり・予想	自分自身	□ 時間配分を決めて取り組むことができたから
		□ 学習のゴールを意識して取り組むことができたから
		□ 目当てについて「やってみたい」「おもしろそう」と思うことができたから
		□ 自分なりに目標を決めて取り組むことができたから
		□ 生活経験や今までの学習をもとに予想することができたから
実験・結果・考察・話し合い	自分自身	□ 「条件をそろえる」など、よりよい実験方法を選ぶ(考える)ことができたから
		□ 実験方法を自分なりに工夫して実験することができたから
		□ 途中で時間を意識して学ぶことができたから
		□ いろいろな方法を試すことができたから
		□ 図や表に結果を分かりやすくまとめることができたから
		□ 一つの実験結果だけでなく、複数の実験結果をもとに考察することができたから
	友達	□ 困った時に友達や先生に助けを求めることができたから
		□ ペアの友達と相談しながら学ぶことができたから
		□ 困っている友達を見付けて助けることができたから

チェックリストを使って、「分かったこと」「その理由」「次にしたいこと」を振り返りました。「結果が曖昧な部分についてさらに実験して確かめたい」「時間配分に気を付けて、より効率的に調べたい」など、次時への意欲を高める姿が見られました。

成果と課題	○丁寧に動機付けを行ったことで、行動場面で諦めずに試行錯誤しながら実験し、結果や考察を交流する姿が見られた。 ▲金属円板を赤枠に置いて体積変化を調べるという実験方法は、結果を見取ることが子供たちにとって難しかった。また、その方法の理解も不十分な部分があったことで正しい結果を得られていないペアがおり、全体の結果にばらつきが見られた。チェックリストが予め振り返りのカード内に用意されていたため、活用段階の支援とはなっていなかった。

第５学年理科「植物を上手に育てるには？　花いっぱい大作戦！！　～植物の発芽と成長～」

学習指導者　藤川　裕人

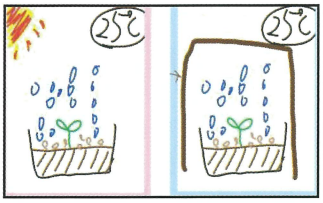
複数の条件の中から、自分たちで調べる条件を決めるために「友達と交流することで調べたいと思う理由を明確にする」という方法を習得できるようにしました。その際、調べたい条件の優先度を考え、整理して表すことができる「ピラミッドチャート」を活用して自分の考えをまとめ、友達と交流する時間を十分取ることで、自分たちの考えを見つめ直すことができるようにしました。

ファストプランツをより成長させるために必要な条件は何だろう

【見通し】

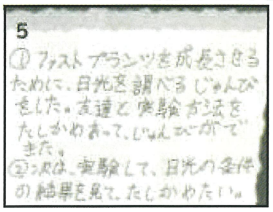
本時の課題を設定した後、「調べる条件を決めるにはどうすればよかったですか」と問うことで、「友達と交流することで調べたいと思う理由を明確にする」という方法を想起させました。その際、ピラミッドチャートを活用して、自分の調べたい条件の優先度を考えた後、グループで調べたい理由を話し合うことで、調べたい理由が強化されたり、自分の調べたい条件が再構成されたりして、グループの調べる必要性のある条件を決めました。

【行動】



絵と言葉で自分の考えた実験方法を表すことができる「アイデアシート」を用いて実験方法を発想できるようにしました。発想した後に、複数の友達と交流することで、正しく条件制御ができているかを検討し、よりよい実験方法を見付けようとする姿が見られました。実験方法を発想した後は、自分たちの調べたい条件を確かめるために必要な実験道具を選択し、実験の準備を進める姿が見られました。

【振り返り】



単元全体を通して、「分かったことやできたこととその理由」と「次の時間にしたいこと」を満開シートに記入するようにしました。「相談することで自分の考えた実験方法に自信がもてた」「他の植物でも、より成長させるために何が必要か調べたい」などと、友達と学ぶことのよさや次時にしたいことを振り返ることができました。

成果と課題	○調べたいと思う理由を話し合うことで、どの子供も自分が調べる条件を決めることができ、意欲的に実験方法を発想したり、実験の準備をしたりする姿が見られた。 ▲調べたい条件の理由を話し合わせる際、自分の意見を伝えるだけの子供がいた。話し合う目的を明確にしたり、既習や経験を想起しながら話し合ったりすることで、より調べる必要のある条件を選ぶことができたのでないか。

第５学年理科「みんなで楽しめるすり抜けゲームにしよう　～ふりこのきまり～」

学習指導者　藤川　裕人

「すり抜けゲーム」という振り子を使ったゲームを行った子供たちは、「もっと難しいゲームにしたい」と意欲を高め、１往復する時間に目を向け、条件制御しながら実験することで、振り子の長さを変えれば１往復する時間が変わることに気付きました。振り返りでは、学び方リストを基に「本時取り組んだ学び方について振り返る」という学びを正確に捉える方法の習得を目指しました。

何を変えれば、１往復する時間を変えられるのだろう

【見通し】

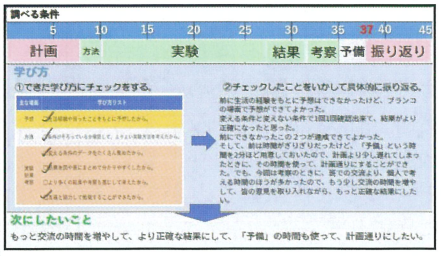
本時の初めには、１往復する時間が変わる条件について調べていたことを想起し、本時の学習課題を確認しました。その際、課題設定の理由や１往復の時間が変わる条件の予想を確認することで課題解決への意欲が高まるようにしました。その後、学び方リストに書かれている観点を意識しながら学びを進めると理科で大切な学び方ができることを教示しました。そして、班の友達と話し合いながら、計画・達成シートに調べる条件や時間配分を記入し計画を立てていきました。

【行動】

実験方法を発想する際は変える条件や変えない条件、それぞれの条件の数値を班で相談しながら自由に決めていきました。必要な重さのおもりを選べるようにしたり、グラフや表の枠を複数用意したりすることで、自ら学びを進められるようにしました。学習支援アプリ上で提出されている他の班の結果も参考に考察をし、結論を導き出す姿が見られました。早く終わった班は、再度実験を行ったり、まだ調べていない条件の実験方法を発想する様相もあり意欲的に取り組んでいました。

【振り返り】

学び方リストの項目にチェックを行い、それを生かして具体的に「学び方」「次にしたいこと」について振り返りました。「もっと交流をしてたくさんデータを集めて、より正確な結果を出したい」「次は時間配分を考えて調べたい」等、次の時間に自分がしたい学び方を明確にすることができました。



成果と課題	○選択の場が多くあったことで、主体的に問題解決する姿が見られた。また、実験方法の間違いにも気付いて修正したり時間配分を考えながら問題解決したりするなど、学びを調整する姿も見られた。 ▲リストに書かれていることができていないのにチェックをしている子供がいた。学び方リストのチェックを増やすということではなく、課題解決に役立つという有用性を感じる必要があったのではないか。

第１学年音楽科「その場でつないで♪　たんうんミュージック」

学習指導者　高塚　仁志

諦めずに試行錯誤する力を身に付けさせるために、まだやったことがないやり方を探して試すという方法を習得させていきました。子供たち自身で取り組む方法を選択しながら学びを進める時間を設定することで、自分たちの学び方を調整しながら、「やってみようシート」を使って多様なやり方で課題解決に向けて粘り強く取り組んでいけるようにしました。

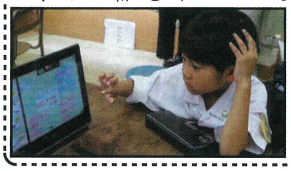
もっともっと面白い音楽にするために音を変えてみよう

【見通し】

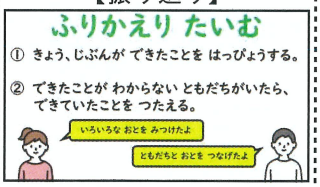
「何でどこを叩くか」を考えて発表し、それを学級全体で模倣してリズムを打つ音遊びを行いました。身体や身の回りの物を使って出せる様々な音色の面白さに気付かせ、本題材で取り組んでいる、リズムを即興的に打ちながらペアでリレーをしてつないでいく「たんうんミュージック」に生かすことで、もっと面白い音楽にしたいという思いを高められるようにしました。

【行動】

子供たちは、どんな音色が出せるかを探したり、他のグループの様子を見に行ったりして様々な音色を見付け、それを実際に使って「たんうんミュージック」をやってみるなど、自分たちで取り組む方法を選択しながら学びを進めていきました。また、各グループにある端末から見られるようにしている「やってみようシート」には、子供たちが新たに見付けた音の出し方を教師がその都度追記・反映し、確認できるようにすることで、まだ誰もやっていない工夫を考えたり、他のグループが見付けた工夫を真似してやってみたりするなど、まだやったことがないやり方を探して試す方法を使う姿が見られました。



【振り返り】



自分や友達ができたことをグループで発表し合い、自分の学びを捉えられるようにしました。全体交流では、取り組む順番を自分たちで選択して取り組んだり、諦めずに試行錯誤する方法を使ったりしたことで面白い音楽になったことを価値付けました。

成果と課題	○20分間の自由な時間に子供たちは取り組む方法を選択して、自己調整しながら課題解決に向かうことができていた。途中でいくつかのグループから、見付けた工夫を学級全体に紹介する場面もあり、それを取り入れて試す姿も見られた。 ▲「やってみようシート」を十分に活用していない子供も見られた。シートの中で本時に関わる部分だけを拡大したり、文字だけでなく写真や絵を使ったりするなど、視認性を高めることでさらに活用させることができたのではないか。

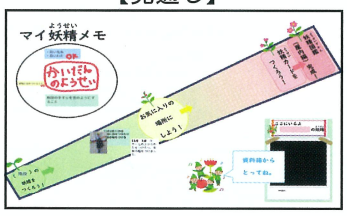
第３学年図画工作科「ここにいるよ　附坂小の妖精」

学習指導者　毛利　二実子

校内のお気に入りの場所に合うポーズで撮影した小さな自分の写真を「附坂小の妖精」に見立てました。そして「附坂小の妖精図鑑をつくろう」という題材のゴールに向かい、学習計画や学びの過程が位置付けられた「マイ妖精メモ」を基に自分の課題を決め、自分の表し方に合った材料や用具を選びながら、妖精をつくったり、お気に入りの場所をつくりかえたりしていきました。

○○の妖精を仕上げよう　　**妖精のお気に入りの場所にしよう**

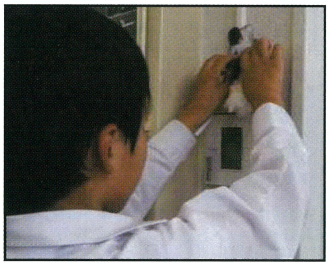
【見通し】



「マイ妖精メモ」を基に、本題材のゴールとこれまでの学習の成果、現在地を確認しました。そして、自分の進み具合に合わせて本時の課題を決め、それを友達と伝え合う場を設定することで課題が明確になり、見通しをもって取り組むことができるようにしました。

【行動】

自分で学びを進めることができるようにするために、材料コーナーを設置し、自分の表したいことに合う材料を自由に選んだり、共有した活動時間を手元の１人１台端末でいつでも確認したりできるようにしました。子供たちは、色や素材に目を向けて材料を選び妖精を装飾したり、図工室や図書室、階段などの場所を妖精に合った場所になるようにつくったりしていきました。できた妖精やお気に入りの場所の写真を撮影し、その変容を感じる姿が見られました。



【振り返り】

本時、自分がしたこととつくったものの写真を「マイ妖精メモ」に位置付け、本時の学びを捉えました。「マイ妖精メモ」に位置付けることによって、見通し場面で想定していた通りに活動が進んだかや、ゴールにどれだけ近づいたかを捉える姿が見られました。

成果と課題	○自分がすべきことを整理することが苦手な子供にとっては、「マイ妖精メモ」ですべきことをはっきりさせることが有効だった。また、子供が「試したい」と思った時にすぐに試行錯誤することができる環境がつくられていた。 ▲本時の見通し場面で自分の課題を決める姿が見えづらかった。一人一人がもっている異なる課題を授業者が把握し、個別に声を掛けるなどの関わりが必要だったのではないか。

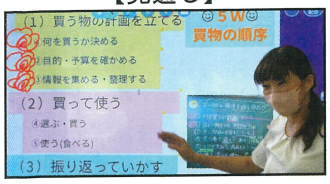
第５学年家庭科「かしこく選んで買物上手　～考えよう　物やお金の使い方～」

学習指導者　山本　千穂

諦めずに試行錯誤しながら課題解決に取り組めるように、「自分の生活を振り返ったり友達の考えを知ったりする」という方法を習得させました。「生活にカエルカード」で、生活経験を想起したり生活場面につないだりしました。また、自分の最初の考えと、友達と相談したり生活を想起したりしながら再考した後の考えを「ファースト・ラストアイデアカード」で比較できるようにしました。

自分の買いたいノートを決めよう

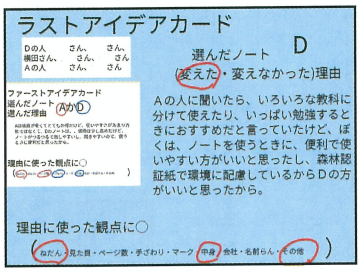
【見通し】



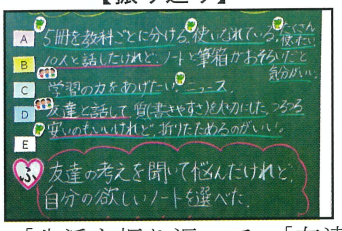
４月に考えた「家庭科の学習を通してなりたい自分」の掲示から買物の学習をする意義を捉えさせました。自分たちで立てた題材計画を見ながら題材のゴールを確認し、既習事項を振り返ることで、「今日はいよいよノートを選ぶぞ」と本時の学習への意欲を高められるようにしました。

【行動】

子供たちは、学習支援アプリを使って、買いたいノートと理由（迷っている場合はその理由）を「ファーストアイデアカード」にまとめました。アプリ上で全員のカードを見られるようにすることで、交流したい相手を選んで交流に行き、交流を通して新しい視点を得たり、改めて自分の生活の中での使用場面を考えたりしながら、自分の買うノートを再考する姿が見られました。再考後の考えを「ラストアイデアカード」にまとめて「ファーストアイデアカード」と比べることで、自分の考えが深まったことを感じられるようにしました。



【振り返り】



「生活を振り返って」「友達と交流して」の観点でノートを選んだ理由について整理したことを基に、振り返る場を設定しました。その後、友達の考えを知ることのよさや、自分の生活から考えることの大切さなど、習得した方法のよさを実感する姿が見られました。

成果と課題	○「選んだノートを実際に買って使う」という題材構成だったため、子供たちはより自分事として考えることができ、自分に合ったノートを選ぶことができた。子供たちが納得して買いたいノートが選べた。 ▲交流場面で、実生活を意識した発言があまり見られなかった。「生活にカエルカード」をもっと意識させる手立てや、子供たちがもっと相手の選んだ理由を深く訊きあっていけるように交流の仕方を身に付けさせる指導が必要である。

第６学年家庭科「目指そう　冬のほっとエコライフ」

学習指導者　山本　千穂

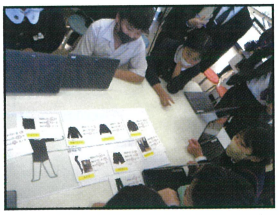
冬の生活の問題を見いだし、「快適で環境にもよい、ほっとエコライフを目指そう」という題材のゴールを設定して学習を進めてきました。本時では、冬の服の長所や短所などの特徴を「空気の含有量」「風通し」「動きやすさ」の観点でまとめた冬のアイテムカードを使って、「生活場面に合わせて既習の様々な着方を選ぶ」という諦めずに試行錯誤する方法を身に付けさせました。

場面に合わせた着方を考えよう

【見通し】

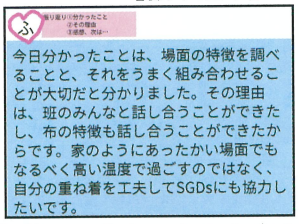
前時に調べた様々な冬服の特徴を振り返り、「短所をカバーし合うために全ての服を組み合わせればよいのではないか」という考えから、上着を四つ重ね着した例を見ることで、場面に合わせた着方を考える必要があることに気付かせ、本時の課題を設定できるようにしました。

【行動】



見通し場面での「全ての上着を着ると動きにくい」という考えから、公園に遊びに行く時にはどのような服装がよいか、前時までに作っていた「冬のアイテムカード」を操作しながら考える時間を設定しました。それぞれの服の特徴や既習の暖かい着方の知識から、「長袖シャツとセーターを重ね着するとよい」「外なので風を通さない上着がよい」「マフラーとネックウォーマーだとどちらがよいか」などをグループの友達と伝え合う姿が見られました。その後はスポーツの応援や犬の散歩など自分の考えたい場面を選び、公園の例と同様に、自分の持っている服ならどう組み合わせられそうかをカードを操作して考えていました。

【振り返り】



三つの観点（分かったこと、理由、次は…）を基に、分かったことやその理由、次にしたいことを振り返らせました。「友達と話し合って考えたから、場面の特徴に合わせて組み合わせることが分かった。家の中でも重ね着を工夫したい」「これからは目的まで考えて服を決めたい」など、生活の中でも試したいという意欲を高めていました。

成果と課題	○観点を三つに整理した「冬のアイテムカード」を用いて、既習の着方を選んで組み合わせていくことで、お互いの意見の違いに目を向けて話し合うことができた。 ▲活動を精選し、自分の生活での着方を考える時間をもっと確保するべきであった。習得させたい諦めずに試行錯誤する方法をより意識させるために、子供に伝わる言葉でモニターに提示したり板書したりし、視覚的に提示する必要があった。

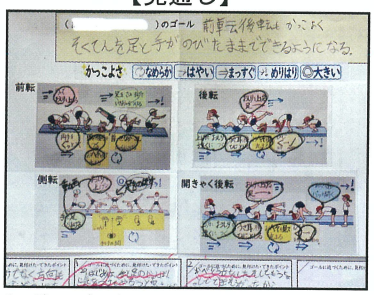
第３学年体育科　「みんなの力で技をかっこよく　～器械運動（マット運動）～」

学習指導者　安岐　美佐子

６年生の技の動画（前転、後転、開脚後転、側転）を見た子供たちは、自分も大きく、滑らかに、速く動けるなど、かっこよく動けるようになりたいと思いを高め、一人一人がかっこよくしたい技を選び、ゴールを設定しました。選んだ技をかっこよくするために、どのポイントから取り組めばよいか試したり友達と確認したりしながら、課題を設定する方法が身に付くようにしました。

おへそを見て滑らかに転がろう　　**足を伸ばして大きな側転にしよう**

【見通し】



まず、自分のゴール追求シートに書いている選んだ技（ゴール）を確認させました。次に、前時の振り返りで確認したゴールに近づくために取り組むポイントを選び、本時の課題として設定する時間を設けました。その後、活動の時間を設定しました。

【行動】

自分の課題を意識できるよう、ポイントが書かれたボードに名前磁石を貼るよう促しました。そうすることで、子供たちは、手や足の着く位置や向きの目印、おへそを見るためのゴムベルト、傾斜のある場など、課題に応じて練習の場を選んで取り組んでいました。さらに、友達に自分の課題を伝えて、見てもらったり、動画に撮って手本の６年生と比べたりして、よりかっこよく動けるように、何度も挑戦していました。

【振り返り】

自分のゴール追求シートを使って、本時の取組を振り返る時間を設定しました。子供たちは、できるようになったポイントに丸を書き足し、自分のゴールに近づくために必要なポイントを新たに見付けていました。また、課題解決につながった取り組み方も記述していました。最後に、全体で、できたことを共有することで、本時の学びをより明確にし、次にしたいことを見いだしていました。

成果と課題	○場の設定などの工夫によって、子供たちが自分のゴールに向けて主体的に課題を解決しようとしていく姿が見られた。 ▲ポイントが書かれたボードを手掛かりにして、友達同士で見合ったり声をかけ合ったりする姿は見られたが、できばえについて正しく伝えられていないところもあった。動きを見る際の視点やその目印の工夫がさらに必要であった。また、動画で確認してから解決したポイントに丸を書くなどの工夫も考えられた。

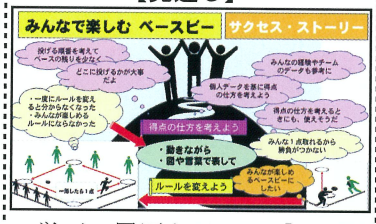
第６学年体育科「みんなで楽しむベースビー　～ベースボール型～」

学習指導者　藤井　康裕

単元の前半には、「動きながら」や「図や言葉で表して」など、自分ができそうなことから選んで考えることが楽しいゲームをつくる上で有効であることを共有しました。そして、みんなが楽しめる魅力的なゲームになったという成功体験を共有しながら、攻め方を考える際にも、経験やデータを基に自分ができそうだと思うものから選んで試す方法を身に付けられるようにしました。

どこに、どのように投げれば点が取れるのだろう

【見通し】



学びの履歴を示した「サクセス・ストーリー」で、ベースの数や位置、点数などを手掛かりにルールづくりを行い、みんなが参加できるゲームができたことを振り返りました。「より得点するために投げる方向を考えたい」という子供たちの思いから、学習課題を設定しました。

【行動】

フリスビーを投げたときの飛距離やカーブの仕方などの個人の特徴を記したデータを基に、自分ができそうだと思う方法から選んでチームの作戦を決めていく姿が見られました。ゲーム中には、チームで協力して、誰が何点取ったか、投げ方や投げた方向はどうだったか、などのデータを収集していきました。前半のゲームで集めたデータと個人の特徴、さらには、これまでの経験を基にして、個人やチームの特徴を生かした作戦が成功しているかどうかを確かめることができました。投げ方や投げる方向などをチームで再考し、後半戦では、相手がいないところに投げて走者を進めたり、出塁した仲間の位置を確認しながら投げる方向を考え試したりする姿が見られました。

【振り返り】

たくさん得点できる方法が見付かった理由として、投げ方をいろいろと試したことやチームで考えを出し合った時間をもったことが挙がり、諦めずに取り組む大切さを実感する子供たちの姿が見られました。また、走者が残留して「もったいない」という意識から、次は投げる順番を工夫したいと次時への意欲を高めていました。

成果と課題	○自分ができそうなものから選ぶことで、一人一人が自信をもって取り組むことができ、楽しいゲームをつくるためにみんなでルールや作戦を変えていこうと試行錯誤する姿が見られた。 ▲ルールづくりの段階で「みんなが楽しむためには、一人一人が得点できることが必要な条件だ」という意識をもたせておくことで、よりたくさん得点するための方法を考えていく段階にスムーズにつなぐことができたのではないか。

第２学年道徳科「優しい心で楽しいクラスに　～『まいごのすず』（学研）【Ｂ親切、思いやり】～」

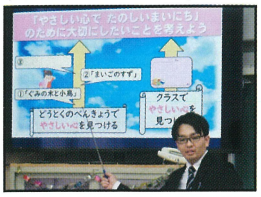
学習指導者　東　泰右

事前質問紙の結果を基に、学級目標である「優しい心で楽しい毎日」の実態を振り返り、みんなが優しい心で生活できるようになりたいという思いをもった子供たちは、道徳科の学習や普段の生活場面で様々な優しい心（気持ち・行為）を見付けていきました。振り返りでは、「これまでも大切にしていたこと」や「新しい発見」を探すという、学びを正確に捉える方法の習得を目指しました。

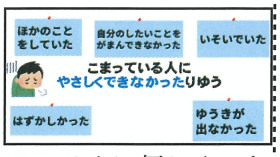
「まいごのすず」から優しい心を見付けよう

【見通し】

モニターに示した学習の流れを基に、前時の学習や単元の目標を確認することで、「前の時間も優しい心が見付かったよ」「学級目標に近付くために、今日のお話からも優しい心を見付けたいな」などと課題解決への意欲を高めていました。

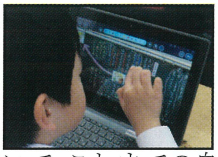


【行動】



主人公たちが落とし物の鍵を見つめている場面に着目させ、届けるかどうか迷う気持ちがあったことを確認しました。その際、「これまでに自分たちが困っている人に優しくできなかった理由」との共通点を探し、主人公たちが迷う気持ちに共感していきました。その後、映画を諦めて鍵を届けに戻った理由について交流し、優しい心について多様な考えに触れました。全体交流では、「持ち主が困っているかなと心配したんじゃないかな」「でも、持ち主は知らない人だよね」「届けた方が自分も相手も嬉しくなると思うよ。相手が誰かは関係ないよ」などと、親切な行為のよさや、実行に移すために大切なことに気付いていきました。

【振り返り】



振り返りカードを見て、「『優しい心で楽しい毎日』のためにこれから大切にしたいこと」について、これまでの自分の考えを確認しました。その後、学習支援アプリ上の本時の板書の写真から「これまでも大切にしていたこと」や「新しい発見」を探し、それぞれに色分けして線を引きました。これまでの自分を見つめながら本時の学習を振り返ったことで、「相手が誰でも親切にする」などの優しい心（本時の学び）を見付けることができました。そして、見付けた優しい心を手掛かりに、これから大切にしたいことを考え、その理由とともにペアで伝え合いました。

成果と課題	○学級目標と関連させて単元化したことで目標が明確になり、意欲的に取り組む姿が見られた。「優しくできなかった理由」の提示や経験を想起させる発問によって、主人公たちの迷う気持ちに共感させる手立てが効果的だった。 ▲これから大切にしたいことが、「落とし物を届けたい」など教材文の場面に終始してしまう子供がいた。生活場面とつなげたり、単元化したことのよさを生かし、前時からの考えの深まりに目を向けさせたりする手立てがあるとよい。

第３学年道徳科「友達を大切にするために」

学習指導者　好井　佑馬

振り返り場面において、「心に残ったこと」「今までの自分」の視点で、単元を通して振り返ることができるようにし、書いたことを友達と話し合い、再度自分を見つめられるようにすることで、学びを明確にできるようにしました。単元の終末には、これまでの学習を振り返り、自分の考えをもつ場を設定し、より長期的な視点で自分を見つめ、自分の変容に気付けるようにしました。

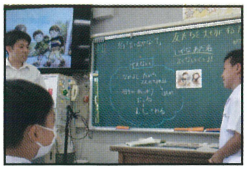
かずやにどんなことを伝えたいかな

【見通し】

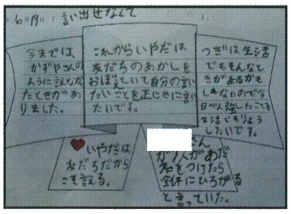
単元を通して、学級目標を基に設定した「友達を大切にするクラス」にするためにどうしたらよいかを考えていたことを想起させ、本時の学習を行う目的を確認しました。そして、教材文のかずやが仲よしの友達に嫌なあだ名を付けられたのに、「やめてほしい」と言い出せなかった理由を問いました。「嫌われたくない」などの理由から自分がよいと思っても行動できないときの気持ちを想像できるようにしました。そして、同じような経験はあるかを考えさせることで、教材と自分をつないで考えられるようにしました。

【行動】

「かずやに伝えたいこと」をペアで話し合った後、かずや役の教師に対して伝えてみる場を設けました。自信をもって「やめてほしい」と言った方がいいと思う理由を多様に話す子供に対して、「でも、仲よしだからこそ言い出せないんだよ」などと問い返すことで、正しいと思ってもなかなか実行できない気持ちについて理解を深めながら、自分がよいと思うことをきちんと行うことが両者にとってよいことや友達を信頼して行動することの大切さに気付く様子が見られました。



【振り返り】



これまでの道徳科の授業でも継続して用いているハートのリボンカードを用いることで、振り返る視点を提示しなくても自分から「今までの自分」を振り返り、記述する様子が見られました。また、友達と話し合う際には、「そうだね」「そうだったの」プレートを用いて反応を返せるようにすることで、対話を促しました。そして、話し合ったことを基に、再度自分の考えを見つめ直す時間を設けることで、友達の考えを取り入れたり、自分が学んだことをはっきりとさせる姿が見られました。

成果と課題	○役割演技を行いながら教師が問い返すことで、よいと分かっていても簡単にできない思いについて考えさせることができた。振り返る視点が明確なワークシートによって、指示がなくても振り返りを記述し、自分を見つめる様子が見られた。 ▲見通し場面で正しいと分かっていても言えない状況を具体的に想定させたり、行動場面で実生活での友達を想定させ、その友達に言えるかを問うたりすることで、より自分の生活を想像して自分を見つめることができたのではないか。

第５学年道徳科「よりよい学級集団を目指して」

学習指導者　岡根　平

自らの学びを正確に捉えることができるように、これまでの自分の考えと今の考えを比較し、異同を捉えるという方法を習得させていきました。また、単元を通して屋島集団宿泊学習での活動や、それに向けての学級活動の後に、「よりよい学級集団になるためには何が必要か」というテーマについて考えたことを記録・蓄積させ、学習前後の考えを比較しやすくしました。

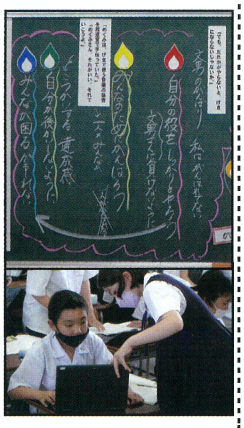
なぜ、えり子は絵の絵の完成に向けて頑張れたのか

【見通し】

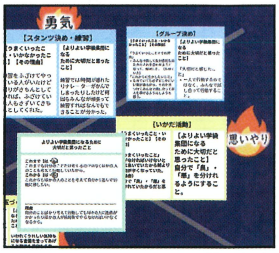
単元のテーマを確認した後、宿泊学習を通してうまくいった・いかなかったと感じた活動についてのアンケートや写真を提示し、似た場面が教材になかったか問うことで自己と教材のつながりを感じさせ、目当てについて考える意欲を高めました。

【行動】

やる気が出なかったえり子が、どうして絵の完成に向けて頑張れたのか話し合い、「自分の役をしっかりやろう」「自分が後悔しないように」「みんなのために頑張ろう」など、様々な思いがえり子の気持ちを支えていたことを捉えさせました。その後、それらの気持ちを色分けし、よりよい学級集団になるために自分ならどの気持ちを大切にしたいかを考え、選んだ気持ちとその理由を友達と交流することで、考えの変容や、それぞれの気持ちのつながりを捉え、集団生活の充実に向けての理解を深めていきました。



【振り返り】



単元を通して、「よりよい学級集団になるために大切なものは何か」という視点で振り返り、キャンプファイヤーでの四つの火を示したシートに蓄積させました。本時では、自分の学びを正確に捉えるために「前の自分の考えと比べる」という方法を想起させ、これまでの振り返りを見返したことで本時新たな考えを見付けたり、今まで考えていたことについてさらに強く感じたり、実践への自信をもったりする姿が見られました。

成果と課題	○学校行事や学級活動を含めて単元を構成し、一つのテーマを設定することで、体験を通して感じたことと本時の道徳の時間で考えたことをつなぎながら、集団生活の充実のために大切なことについてより自分事として考えることができた。 ▲これまでの振り返りを見返すだけでなく、本時の振り返りを記録したカードを、四つの火を示したシートのどこに位置付けるかを考える時間も設定することで、これまでの考えとの関連をより意識し、比較できたのではないか。

第６学年総合的な学習の時間「未来プロジェクト　～『附ッザニア』を開こう～」

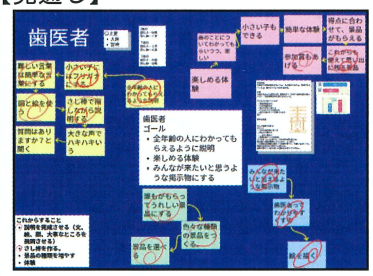
学習指導者　T1滝井　康隆　　T2藤井　康裕

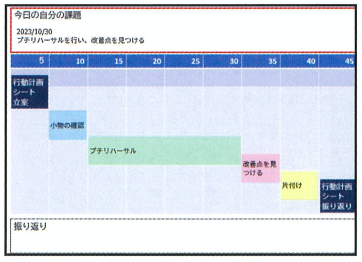
子供たちは、将来の生き方について視野を広げるために、興味のある仕事について調べてきました。全校生や保護者に調べたことを伝えようと、説明を聞いて簡単な体験をしてもらおうと考えました。理想のブース像をゴールとして設定させ、そのゴールを達成するために必要なことを考え、前時を参考にしたり友達と話し合ったりしながら課題を設定するという方法の習得を目指しました。

附小フェスタに向けてブースを改善しよう

【見通し】

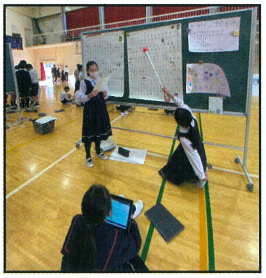
子供たちは、自分たちのゴールを達成するために必要なことを並べたイメージマップを使って、自分の課題を設定しました。その際、前時の活動を想起したり、友達と課題について話し合うよう促しました。子供たちは、必要性の高い課題を設定し、課題の解決方法と活動にかける時間を考え、行動計画を立てていきました。



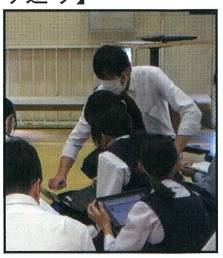


【行動】

子供たちは、グループで行動計画を立てた後、それぞれの課題を解決するために様々な方法で活動していきました。見通し場面で作成した行動計画シートに沿って活動し、説明を聞きやすいものにするために、説明役と聞き役に別れて練習を繰り返したり、より伝わりやすくするために掲示物を作り直したりしていきました。



【振り返り】



友達と成果について話し合いながら、行動計画シートを使って、本時の活動を振り返るよう促しました。子供たちは、課題を解決できたかどうかを判断し、解決方法及び時間配分が適切であったかを自己評価しました。その後、本時の活動の感想を記述することで、自分が解決したことを明確にしたり、次にすべきことを見いだしたりしていきました。

成果と課題	○イメージマップを使って、これまでに解決してきた課題やゴールを現在の自分たちの状況と比較しながら、よりよいブースにするために自分たちの課題を明確にしていく様子が見られた。 ▲活動時間を確保することも大切であるが、授業の見通し場面で行ったように振り返り場面でも、現在の各グループの活動状況や成果、改善点などについて全体で共有することで、よりよい活動につなげることができたのではないか。

特別活動における取組

委員会活動

各委員会が特色を生かし、子供たちが主体となって活動を計画・運営しています。

体育委員会【附坂小オリンピック】

「全校生が運動に親しめるように」という目的のもと、実施する種目や数をメンバーで話し合い、活動内容を決め、計画・準備しました。

昼休みに附坂小オリンピックを計３回開催し、計画・準備した種目で、全校生に運動に親しんでもらいました。

開催後は、全校生の遊ぶ様子を振り返り、「動きが簡単であまり面白くなさそう」「待つ時間が長い」といった課題を見付け、次回に向けての改善策を考えました。

緑化・美化委員会【桜の木復活プロジェクト】

元気がない桜の木を復活させたいという思いから、樹木医さんにその方法を教えてもらい、桜の木を復活させる計画を立てました。

実際に樹木医さんに、木を診てもらいました。水が吸い上げられていないことが分かり、土を柔らかくしたり、水が深くまで入るようにしたりする方法を試しました。

その後、さらに別の場所にある元気がない木も復活させたいと、教えてもらったことを生かし、落ち葉を敷いたり、根を守るためにプランターで囲んだりしました。

クラブ活動

６年生が自分たちでクラブを設立し、下級生の意見を取り上げながら、運営しています。

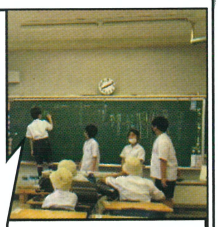
６年生で話し合い、自分たちで立ち上げたいクラブを考えました。４・５年生からも希望をとり、みんなが楽しめるクラブになるように企画・設立しました。立ち上げたいクラブが決まった後は、自分たちのクラブ活動をPRしました。たくさんの人に入ってもらえるように、各学級を回って活動内容を紹介したり、テレビ放送でプレゼンをしたりしました。

自分が参加するクラブが決まった後、1回目の活動では、メンバー全員で、1年間の大まかなスケジュールを話し合い、計画を立てました。２回目以降はその計画に沿って活動しました。

【合奏クラブ】

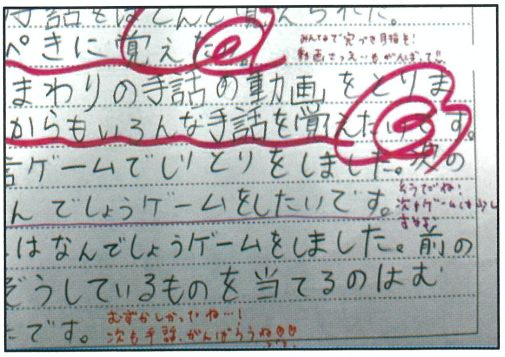
私たちのクラブは、みんなで合奏をすることをゴールにしよう。そのために演奏する楽器や、どれぐらい練習するかを決めよう。

僕たちのクラブは、どんな球技をするか決めよう。体育館を使うクラブがもう一つあるから、いつ体育館を使うかの順番もお互いに相談しよう。



【スポーツクラブ】

毎回の活動後には、クラブカードに振り返りを書き、今日したことや、次回したいことを考えました。毎時間の活動の進み具合と計画を照らし合わせながら、メンバーで次回することを決めたり、計画を修正したりしました。中には、６年生がメンバーの振り返りをチェックしたり、それを基に次回の計画を見直したりしているクラブもありました。



朝の活動

自己調整力を育成するには他者の存在が重要であり、互いに高め合える人間関係や自分の考えを安心して表出できる学級の雰囲気が必要です。そのため本校では、朝の活動としてSGE（構成的グループエンカウンター）やSST（ソーシャルスキルトレーニング）などを行っています。これらを計画的に位置付けることによって、ルールとリレーションが確立された学級集団づくりを目指しています。

四つの部屋

ねらい　対話のルールや他者の話に耳を傾ける方法を学びながら、自分と違う考えをもつ人の存在に気付き、それを尊重する心情を育成すること

【ルール】
①活動のねらいを共有する。
②質問と4つの答えを見て、自分の答えに近いところへ移動する。
③集まった人同士で、その答えを選んだ理由を話し合い、似ている点や違う点を探しながら聴き合う。

クリスマスがあるから、冬が一番好き。

なるほど。クリスマスもいいよね。私も冬が好きだけど理由が違って、冬だとスキーができるからだよ。

【共有した子供の振り返り】
・同じ答えでも、友達と理由が違っていたので面白かったです。
・自分と同じ理由を聴いて、「私も同じだ」と、強く感じました。
・他の質問で、もっと他の人とも話してみたいと思いました。

聖徳太子ゲーム

ねらい　相手を見てしっかり聴くことが大事だということに気付き、話し手の方に集中することが習慣化されること

【ルール】
①活動のねらいを共有する。
②代表者を3人程度決め、その代表者が「すきな〇〇」について、同時に言う。
③聞き手は、それぞれが何と言っていたかを当てる。

りんごとぶどうと、あと一つは何だろう。

〇〇さんは、メロンと言っていたよ。私と同じで、メロンが好きだということを今まで知らなかったよ。

【共有した子供の振り返り】
・話している人の言っていることをよく聴くことができました。
・友達の知らなかったことに気付くことができて、楽しかったです。
・他のお題でも挑戦して、もっと聴く力を付けたいと思いました。

自己調整力に関する質問紙の結果から、自分から友達に関わろうとしたり、自分と意見が違っていても話を最後まで聴こうとしたりするなど、「他者と適切に関わる力」に関する項目について、肯定的回答の割合が上昇しており、朝の活動の積み重ねの成果と考えています。

「他者と適切に関わる力」に関する項目の肯定率の比較

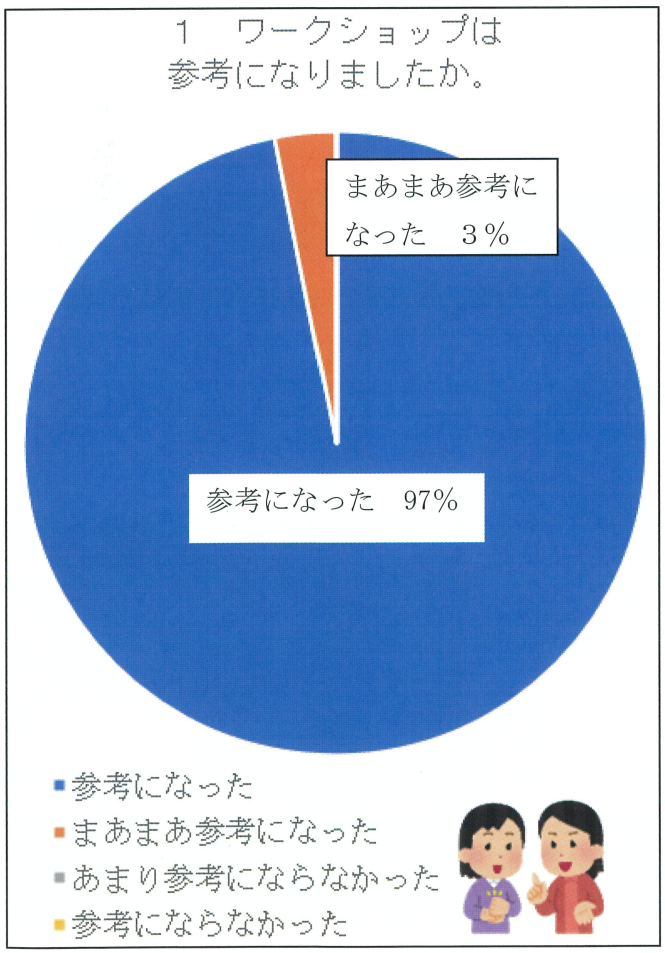
	5月	11月	1月
自分から友達に関わろうとしている。	88.8	90.6	91.4
友達の意見が自分と違っていても、話を最後まで聞こうとしている。	95.6	94.6	95.9

わくわく 授業づくりワークショップ

本年度は、対面とオンラインを併用しながら、年間４回のワークショップを実施いたしました。全国から延べ 240 名の参加申込をいただきました。学校関係者や教職を目指す学生などと子供にときめきをもたらす学びのつくり方について一緒に考えることができました。

開催日	内容	申込人数
６／23	教師と子供、子供同士をつなぐための教師の手立て	６５名
８／22	１人１台端末の活用について part 1	６０名
８／25	１人１台端末の活用について part 2	７４名
２／22	自己調整力って何だろう？座談会	４１名

ワークショップに参加された先生方の声をまとめました。四段階で回答していただいています。



２　１の回答の理由について教えてください。

・低、中、高学年それぞれの先生方の取組について話を聞くことができたから。

・明日から自分のクラスで取り入れられそうな内容について学ぶことができたから。

・自分が子供たちにできることは何かを改めて考えようと思うきっかけになったから。

・教師としての動きだけではなく、子供側の立場で体験することで、子供の気持ちを考えられたから。

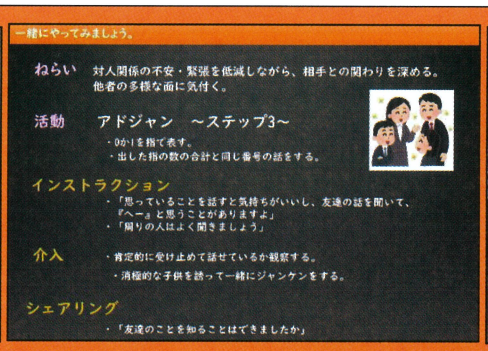
・ICT 機器を使う目的や意味やよさ、１人１台端末の便利で面白い使い方を知ることができたから。

・自己調整学習を支える具体的な教師の手立てや授業づくりについて知ることができたから。

以上のような肯定的な回答を多数いただきました。今後も、体験的で、明日の授業で使える内容について提案していきたいと思っております。次頁以降で、各回の取組について紹介します。

６月 23 日（金）　教師と子供、子供同士をつなぐための教師の手立て

「つなぐ」をテーマに、教師と子供、子供同士がつながる学級づくりについて、どのような思いで、子供たちを育てようとしているのかを、これまでの経験を基に、低・中・高学年それぞれの学年ごとにつなぐための手立てを紹介しました。また、あたたかな学級づくりの手がかりとして、「四つの部屋」や「アドジャン」といった構成的グループエンカウンターの活動を紹介し、オンラインの参加者の方とも一緒に行いました。



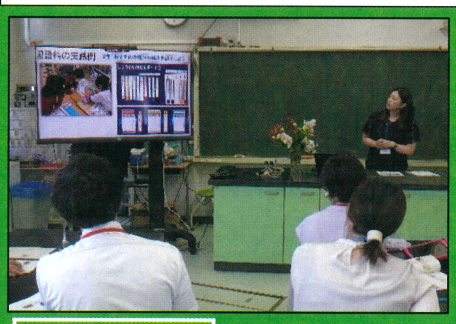
参加者の声

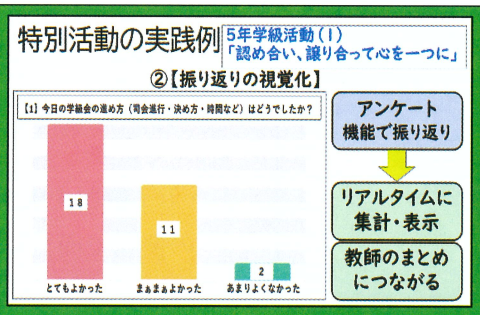
低・中・高学年の発達段階に応じた、具体的な学級づくりの基本や子供同士をつなぐポイントを学ぶことができ、明日から実践できる、実践したい活動を持ち帰ることができました。

子供との関わりについて、最近は教師目線でしか考えられていなかったが、子供役になることで、初対面の人と話す難しさやどういう指示や導きが効果的なのかを学べました。

８月 22 日（火）　１人１台端末の活用について part１

国語科、音楽科、図画工作科、家庭科、外国語科、特別活動における１人１台端末を活用した実践紹介や、授業で活用できる Web サイトを生かす方法など、ICT 機器の効果的な活用法について考えていきました。考えの共有、作業の効率化、学びの履歴の蓄積といった ICT 機器のメリットを最大限生かすために、授業のねらいや子供の実態を踏まえて、活用する場面を考えることの大切さを再確認しました。





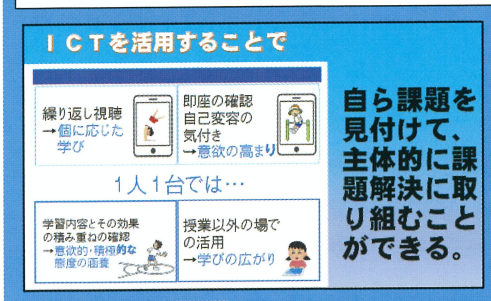
参加者の声

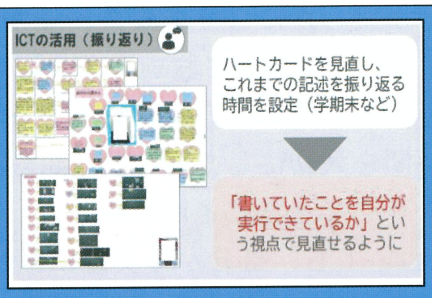
１人１台端末を持っていながら、どのように使えばよいか分からず、もったいないなと感じていました。今回のワークショップで、機器を使うことはあくまでも手段であり、目的を考えて、使用場面を具体的にイメージすることが効果的な活用につながるのだと分かりました。

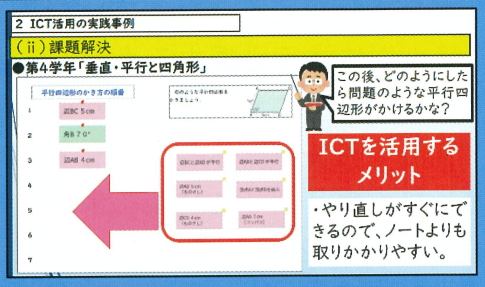
各教科での実践例が新学期から活用できそうだったのでとてもよかったです。ICT を活用する時と紙に書く時の使い分けを考えていかないとと感じました。実際に体験できてよかったです。

８月 25 日（金）　１人１台端末の活用について part２

Part１に続き、算数科、体育科、道徳科における１人１台端末の活用の可能性について考えました。Part２では、「それぞれの子供たちの思いに合わせた活動の保障」、「学習の個性化」、「協働への意欲を高める」「長期的な振り返り」「自らの学びのマネジメント」といったキーワードを実現するための活用の可能性について、実践を基に具体的な活用の様子を紹介しました。







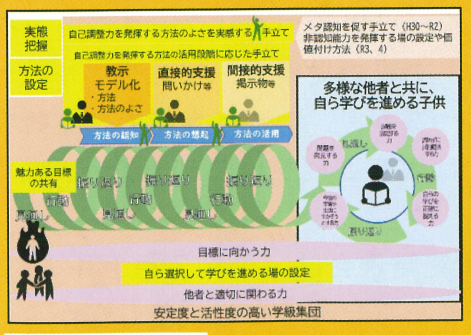
参加者の声

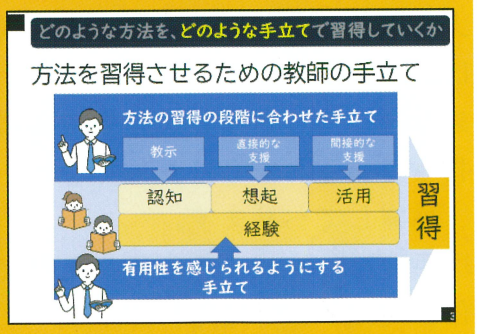
何を共有するのか、どんなことを蓄積していくのかという ICT 活用の方法についての具体的な引き出しが増えました。教科で大切にしていくべき視点も学ぶことができ、今後に生かしたいです。

使えばよいというものではなく、子供たちが自分の考えを表出したり、友達や以前の自分と比較したりするためにとても有用なものと成り得ることを具体例と共に教えていただきました。

２月 22 日（木）　自己調整力って何だろう？座談会

「自己調整学習とはどのような学習であるか」や「自己調整力を育てるための手立て」などについて、香川大学の准教授　岡田涼先生とお話ししながら学びを深めていきました。本校の実践例を紹介しながら、自己調整力を育てるための手立てについて説明し、子供が学びを選択する場を設定することの価値や子供の実態に応じて教師の支援の質を変えていく大切さについて再確認することができました。





参加者の声

指導を間接的にしていくことで、ワークシートなしでもどのように書いたらいいかを考え、実行できるのは、それまでの積み重ねが生きている証拠だと感じました。今後の実践に生かしたいです。

支援の質を変えるというお話が学びになりました。自己調整をしている学習者の姿が目に浮かぶと同時に、指導者の支援のあり方や支援の方法も具体的に知ることができました。

次年度の研究に向けて

本年度は、「多様な他者と共に、自ら学びを進める子供」を育てるために、自己調整して学ぶために必要な力を七つ設定し、その力を発揮する方法の習得を目指してきました。そして、自己調整力を発揮する方法の具体や、そのよさを実感できるようにするための手立ての効果を検証してきました。

自己調整力に関する質問紙の結果では、「目標に向かう力」は、9割の子供たちが発揮していると捉えていることが明らかになりました。また、授業中に「諦めずに試行錯誤する力」を発揮して、各活動において多様な考え方で取り組んだり、失敗しても途中で投げ出さずに取り組んだりする姿がよく見られるようになりました。これは、単元や題材の導入で、学ぶ意義や価値を具体的に共有する時間を大切にしたり、1時間の課題解決に限定せず、単元や題材全体を通して、やり直せる時間を保障したりしてきたことが影響しているのではないかと考えています。

また、「他者と適切に関わる力」についても、自分から友達に関わろうとしている子供が増えており、安定度と活性度の高い学級集団づくりを大切にしてきた成果と言えると考えています。

一方で、勉強する前に何をどのように取り組むかを考えたり、これまでの学習を思い出してから取り組もうとしたりする「課題を設定する力」や「今後の学習や生活に生かそうとする力」には課題が見られました。そこで、次年度は、「見通し場面」、「行動場面」、「振り返り場面」といった学習過程を子供がより意識して取り組めるようにし、これまでの学びを振り返り、取り組む課題や方法を考えることが次の学びへ向かうために重要であることを理解できるように関わっていきたいと考えています。また、本年度明らかになった自己調整力を発揮する方法を整理し、系統的に方法の習得を目指したいと考えています。長期的な視点で、「多様な他者と共に、自ら学びを進める子供」の育成に取り組んでいきます。公開研究授業や教育研究発表会を通して、たくさんの先生方に子供たちの姿を見て、本校の研究についてご意見をいただきたいと思っています。ご参加、お待ちしております。

あとがき

教　頭　　田中（たなか）　明日香（あすか）

本年度は、学習の進め方を自ら調整しながら、他者と関わり合って目標に向かう学習者を育てられるように、発達段階に配慮して授業づくりを行って参りました。本年度公開した24本の研究授業には、100名以上の方にご参加いただき、貴重なご意見を賜りました。また、「わくわく授業づくりワークショップ」には、200名以上の方々にご参加いただきました。参加者の皆様には、本校の提案や、授業づくりについて語り合ったことなどを各校で活用していただいています。先生方とつながり、地域に貢献できる研究を目指している私たちにとって、たくさんの方々に来校いただけたことは大変うれしいことであり、職員一同、感謝しております。

次年度は、本校の教育研究発表会の年となります。第104回教育研究発表会は、令和7年1月31日に開催予定です。研究発表会では、少しでも成果をお伝えできるよう、私たち自身も自己調整しながら、子供に寄り添って研究を進めて参ります。今後とも、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

編集委員

滝井 康隆　米谷 直樹
好井 佑馬　岡根　平
東　泰右　井下 修一

令和6年3月14日

香川大学教育学部附属坂出小学校

〒762-0031 香川県坂出市文京町二丁目4番2号
TEL：0877-46-2692　FAX：0877-46-5218
E-mail：sakaide@kagawa-u.ac.jp

【本校HP】　【本校Instagram】
過去の指導案や、研究の歩み、日々の実践の様子をご覧いただけます。